

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和3年2月14日

事業所名 板橋区立加賀福祉園児童ホーム

		チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	12	1	1	<ul style="list-style-type: none"> 部屋数の調整が難しい時は、廊下やパーティションを活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別活動、静養などをより適切な環境で行いたいという職員からの意見もあるが、定員に比したスペースは広めであり、その中で工夫していく。
	②	職員の配置数は適切である	3	11	0	<ul style="list-style-type: none"> 各クラスの登園人数、状況など調整しながら協力体制を整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 配置数自体は適切だが今年度に入り欠員状態が続いている。そのため、十分な支援が行えないという思いが殆どの職員にある。 逆に昨年度までの職員数がほぼ足りていた時期に、人員配置で賄えてしまうが故に検討が足りなかった可能性のある支援（より細かい環境設定や児童の自発的な行動調整への方向づけ等々）を振り返る機会ともしていく。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	10	3	1	<ul style="list-style-type: none"> 壁に目立つ色のクッションを付いたり、角をクッションで保護したり、目立つ色にしている。 視覚的手掛かりなども適宜用いている。 	<ul style="list-style-type: none"> エレベータが設置されていないが（構造上設置困難）、移動は大人と一緒に前提となる未就学児の施設のため現状が続くと思われる。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	7	2	<ul style="list-style-type: none"> 「生活安心プロジェクト」に基づく遊具点検を行っている（半年に一回）。 業者による固定遊具の点検を行っている（年一回）。 次亜塩素酸溶液による床や手すり等の水拭きを毎日行い、感染症の防止に努めている。 新型コロナウイルス感染防止もあり、より消毒を徹底している（食品添加物アルコール製剤による）。 	<ul style="list-style-type: none"> 建物の古さ故、以下のような面で課題がある。 <ul style="list-style-type: none"> *仕上げや建材の安全性。 *室温や湿度の管理。 *トイレと洗面所が同一の空間である。 *保育室相互の防音性。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	12	1	1	<ul style="list-style-type: none"> 行事等の企画・反省は職員全体で行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 良い面、良くない面は表裏一体であるので、改善点だけでなく、良かった点もあげながら総合的に振り返る。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	14	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度より実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度と比較したグラフ化や保護者からのコメントをまとめ考察している。

適切な支援の提供	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10	1	3	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度より結果をHPで公開している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の意味、位置づけ等については、職員への周知に改善の余地がある。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	12	0	2	<ul style="list-style-type: none"> 3年に1度実施している（直近では平成30年度に実施）。 	<ul style="list-style-type: none"> 結果を振り返りながら改善している
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11	2	1	<ul style="list-style-type: none"> 法人内研修が年2回、正規職員は各人の希望も考慮した外部研修を年1回設定している。その他に自主的に研修に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は職員数減の関係で出張の機会が持てなかったことに加え感染症対策による研修の中止もあって予定通りの実施が出来なかったが、今後はオンライン研修を積極的に取り入れていく。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	13	1	0	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援計画の別紙にて児童の状況を記している。入園前、年度中間、年度末に保護者へ聞き取りを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の気がかりな行動に対して“望ましい”と大人が考えることへ方向づける前に“なぜそれをするのか”という背景を捉えるようにする。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10	2	2	<ul style="list-style-type: none"> 各種ツールを土台に園独自のものの作成を計画中。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達検査(K式等)、太田ステージ、ポーター、ムーブメントや各種発達段階表等を使用している。 上記から適宜使っているが、どこに視点を置いてそれらを参考にすることが大切なので、日常的にお子さんについての話を自由にする場作りに留意している。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	14	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 大きな目標を捉えてから各項目に下ろして検討、作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> 状況によっては、必要な支援それぞれの落とし所を考えていくことにも留意する。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	12	1	1	<ul style="list-style-type: none"> 「支援計画実施経過表」を作成しており、随時チェックしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 左記の経過表の利用により、実行が伴う計画になっている。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	14	0	0	<ul style="list-style-type: none"> クラスで確認し、話し合いながら行っている。 立案したものは全クラス分が掲載されているものを保護者にも配付。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な発達状況の児童がいる中で、個々のねらいを明確にしながら立案できているか振り返るようにする。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	14	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 変えていくもの、繰り返しの中で見えてくるもの等、それぞれの良さを活かせるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の様子に合わせて、予定にはなくてもその場で新しい活動に展開していくことも考えられるようにする。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	14	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 「対大人」「対集団」「対他児」などの項目も意識しながら作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団活動の中での個別的な関わり方についても留意して作成する。 	
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	12	2	0	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝、定時に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 十分な時間をとれない時もあるが、準備も含め前日に大方済ませる。 	

関係機関や保護者との連携	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10	2	2	<ul style="list-style-type: none"> • 毎日の終礼の他、日常的な会話の中でも盛んに行う風土がある。 • 気付いたことがあれば自分から発信するようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 当日に気づいたことを言うのも良いが、予め当日の視点を決めて保育に臨むことも意識してみる（意識して視点を広げる）。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	1	0	<ul style="list-style-type: none"> • メモ程度でもすぐに記録できるような手書きの用紙を準備している。 	<ul style="list-style-type: none"> • その日のうちに記入をする。 • なぜ、それを記録したのかという自分自身の意図を明確にする。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	14	0	0	<ul style="list-style-type: none"> • 「支援計画実施経過表」を用い、随時チェックしている。 	
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11	0	3	<ul style="list-style-type: none"> • 各関係者が出席している。 	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	11	0	3	<ul style="list-style-type: none"> • 必要に応じて保健師や子ども家庭支援センターと連絡を取り合ったり会議を持ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 他事業所、他職種の人にも的確に伝わる表現を各人が意識する。
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	13	0	1	<ul style="list-style-type: none"> • ケースに応じて相談支援専門員を介しながら取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 訪問看護事業との連携や在宅支援が今後の課題である。
	㉔	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	14	0	0	<ul style="list-style-type: none"> • 主治医訪問、受診同行など必要に応じて行っている。 	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	14	0	0	<ul style="list-style-type: none"> • 積極的に電話連絡や訪問などで情報共有するようにしている。 • 移行後のサポートとしてのグループがある（めろん）。 	<ul style="list-style-type: none"> • 移行先の方針、保護者の考え方など様々な方向から考え、取り組んでいく。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	14	0	0	<ul style="list-style-type: none"> • 就学支援シートや引き継ぎ資料の作成、学校側担任と弊園職員の面談を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 支援級、通常学級への引き継ぎが課題となっている。
㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	11	0	3	<ul style="list-style-type: none"> • 地域の関係機関が集まる公式の会議（発達ネット）の他、発達支援事業所の連絡会を持っている。今年度は感染症対策のために中止になった会議もある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 今後、オンライン会議も考えていく。 • 発達支援の内容そのものを意見交換するには至っていない面がある。 	
㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	14	0	0	<ul style="list-style-type: none"> • 全体交流保育の他、年長児の地域交流保育（ご自宅近隣の保育園の活動に職員と児童で参加）を設定している。要支援児体験保育の情報を提供している。 • 今年度は感染症対策のため中止となったものもある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域の保育園の協力の下、個別での参加となる地域交流保育には多くの児童が参加することができた。 	
㉙	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	8	1	5	<ul style="list-style-type: none"> • 自立支援協議会員として児童発達支援管理責任者が参加している。 • 地域療育連絡会に主任、主任補が参加している（今年度は中止）。 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域主催の、児童主体のお祭り等への協力が今年度は出来なかった。あるいは企画が中止となってしまった。 	

保護者への説明責任等	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	13	0	1	<ul style="list-style-type: none"> 日々の連絡帳や随時行う面談等を通して行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は親子通園が殆ど行えず、保護者のかたと発達などについて話す機会は減少したが、電話を利用したり、希望により個別での見学の機会を持ったりした。
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	7	5	2	<ul style="list-style-type: none"> ペアレント・トレーニングとして体系化されたものは導入していないが、関わり方・伝え方などその時々に応じて相談しながら一緒に考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> お子さんへのより良い対応への気持ちはあっても実際の行動を起こすことが様々な事情で困難な家庭もあるので、対応方法を伝えることが重荷になってしまわないように留意しながら取り組む。
	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0	5	<ul style="list-style-type: none"> 契約時や重要事項説明書の説明会にて行っている。 	
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	13	0	1	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への説明の際に、ガイドラインの項目を確認しながら行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> とりかかり始めや支援会議の時期に余裕が持てるようにしていく。 保護者への周知は引き続き行っていく。
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	13	0	1	<ul style="list-style-type: none"> 個別面談や連絡帳などで適宜相談を行っている。 親子通園の時なども利用して会話を持つようにしている。 今年度は電話も利用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ③⑩と重複しますが、今年度については感染症対策として親子通園が少なかったため、不足はあったかもしれない。
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会に活動場所を提供する等の協力をしている。 	
	③⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	13	0	1	<ul style="list-style-type: none"> 朝終礼だけではなく施設長あるいは課長へ対応を仰ぐことがスムーズに行われている。 クラス職員により解決したのも報告が迅速になされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 申し入れや相談等を言い出せない、あるいは言わない方もいることに留意する。
	③⑰	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12	0	2	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回の園だより、2週に1回の活動予定表で発信している。 	<ul style="list-style-type: none"> 読んでもらえるよう、見やすさにも留意する。
	③⑱	個人情報の取扱いに十分注意している	13	0	1	<ul style="list-style-type: none"> 「個人情報持ち出し簿」を使用する等して管理している。 「個人情報取り扱い同意書」にて同意を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 法人で使用している同意書は成人利用者用の書式のため、児童に合わせたものを考える。 同意書による同意に関わらず個人情報を利用の際はその度に同意を取ることとしている。
	③⑲	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	13	0	1	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的手掛かり等を活用している。 語気、言葉の選び方等に留意する。 日本語が母国語でない保護者へわかりやすく伝える方法などを、その都度検討してきた。 書面のほうが伝わりやすい方には個別に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「伝えた」ではなく「伝わった」かどうか、また、情報が偏らないよう留意する。
④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9	2	3	<ul style="list-style-type: none"> 福祉園祭、音楽会、夏祭り等の行事は今年度、縮小あるいは中止となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉園全体の課題として検討。 	

	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	10	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が口にする可能性のある物や場所については食品添加物アルコール製剤を使用して毎日消毒している。 ・今年度は従来のマニュアルだけで対応が決められる状況ではなかったが、内外との連絡調整、保護者への周知を徹底するよう取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策のため、マスクで大人の口元を見ることができないことが、幼児の言語獲得にどう影響するのか。また給食を児童と一緒に食べることも止めているため、咀嚼を始めとした食べることのモデルを示すこともできなくなった。幼児期の経験の有無がどう影響するかはすぐに明らかになるものではなく、元より因果関係の検証も難しいため、大きな課題と感じている。
非常時等の対応	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12	0	2	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月一回、避難訓練を行なっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のねらいを各人が持ちながら取り組む。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	13	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・嘱託医による健診も含め入園前に聞き取っている。 ・予防接種は母子手帳で確認、てんかんは主治医訪問・受診同行。 	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	14	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養の偏りがないよう代替食を提供している。医師の指示書に基づき、区内共通のアレルギー対応表を使用しながら対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の場面以外でも原因食物に触れることがないよう、全員の手洗いや清掃などにも引き続き留意していく。 ・玉子未使用の食材を全児童で使用（誤配防止）。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの他に「気づいたことノート」を共有し、気づいたことは何でも記入しておくようにしている。 	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	14	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待に関するセルフチェックを毎年行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国保育士会編の「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を使用。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	12	0	2	<ul style="list-style-type: none"> ・静止も含め、身体や運動の調整に際し大人が手を添えて行うこともある、ということ支援計画に記載し、保護者に確認をとっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険回避など、やむを得ない場面で身体拘束を行わなければならないことはあり得ると思う。保護者には拘束とはどんな方法か、どんな場面で行う可能性があるか、入園時などに説明するのが望ましい。 ・バスベルトについての説明を行う。

○ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、保護者の方からの評価も踏まえ、事業所全体で行った自己評価です。